

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (味覚編)
- 3 あそびうた さいごが「ん」
- 4 今月の詩 証城寺の狸囃子 野口雨情
- 5 たし算 6の段
- 6 ことわざ 泣き面に蜂 楽あれば苦あり
嘘から出たまこと いずれ菖蒲か杜若
- 7 かけ算 7の段
- 8 俳句 与謝蕪村 小林一茶 加賀千代女
- 9 かぞえうた 1個 1張 1杯 (りんご、すだれ、たこ)
- 10 なぞなぞ
- 11 手あそびうた ゆらゆらタンタン
- 12 音の絵本 スズムシ クツワムシ エンマコオロギ
ウマオイ カネタタキ
- 13 イメージストーリー リード君 (第6話 お月さま)
(イメージしてみましよう)
- 14 今月のうた 手渡し
- 15 おはなし かちかち山
- 16 童謡 証城寺の狸囃子
- 17 漢詩 竹里館
- 18 百人一首 後鳥羽院 法性寺入道前関白太政大臣
左京大夫顕輔 阿部仲麻呂
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

《さいごが「ん」》

しりとりあそびを しってるかい

さいごに「ん」がいたら それでまけ

「ん」がいたら いけないよ

それじゃ さいごに「ん」のつくことばを いってみよう

みかん うどん やかん きりん

めろん ふりん ふとん らいおん



しょうじょうじ たぬきばやし
証城寺の狸囃子

のぐちうじょう
野口雨情

しょうしょう しょうじょう寺
しょうじょう寺の庭は
つ つ 月夜だ
みんな出て こいこいこい
おいらの友だちや
ぽんぽこぽんの ぽん

負けるな 負けるな
おしょうさんに 負けるな
こいこいこい こいこいこい
みんな出てこいこいこい

しょうしょう しょうじょう寺
しょうじょう寺の萩は
つ つ 月夜に
花ざかり
おいらはうかれて
ぽんぽこぽんの ぽん

負けるな 負けるな
おしょうさんに 負けるな
こいこいこい こいこいこい
みんな出てこいこいこい



ことわざ

泣き面に蜂

泣いてむくんでいる顔を蜂が刺すことから、不運なことの上にさらに不幸なことが重なって起こること。



楽あれば苦あり

世の中は楽しいことがあれば苦しいこともある。



嘘から出たまこと

嘘のつもりで言ったことが、偶然事実になってしまうこと。



いづれ菖蒲か杜若

菖蒲と杜若はよく似ていて美しい。どちらもすぐれていて選ぶのに迷うこと。



俳句

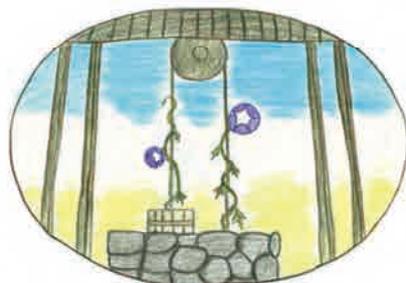
ゆ ^{そこ} 温泉の底に わが ^{あしみ} 足見ゆる け ^さ 今朝の ^{あき} 秋
よ ^さ 与謝 ^ぶ 蕪 ^{そん} 村



あ ^お 仰のけに お ^な 落ちて鳴きけり ^{あき} 秋の ^{せみ} 蝉
こ ^{ばやし} い ^っ 小林 ^さ 一茶



あ ^さ が ^お 朝顔に つるべとられて も ^ら 貰い ^{みず} 水
か ^が の ^ち 加賀 ^よ 千代 ^{じょ} 女



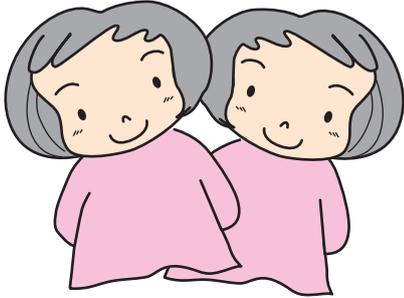
なぜなぜ

- 1 なんでもひとまね。でも、あべこべになっているものなあに？
- 2 あわをだすたび、^{ちい}小さくなっていくものはなあに？
- 3 ^{やま}山の中^{なか}で、^{でんしゃ}電車が^き消えたりで^{きて}きたりするあなはなあに？
- 4 あたまに^ひ火をつけると、^{なみだ}涙をながしながら^{ちい}小さくなっていくものはなあに？



《ゆらゆらタンタン》

① ゆらゆら



からだをゆらす

② タンタン



手をたたく

③ おめめ



④ ゆらゆら
タンタン

①②くりかえす

⑤ おはな



⑥ ゆらゆら
タンタン

①②くりかえす

⑦ おくち



⑧ プーッと



ほおをふくらます

⑨ ほっぺに



⑩ おみみ



音の絵本

今月は、いろいろな虫たちです。

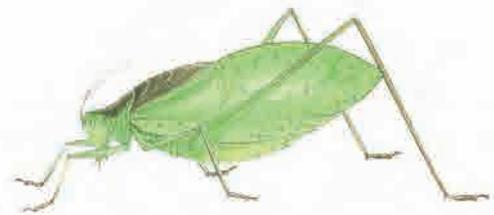
- 1) スズムシ
- 2) クツワムシ
- 3) エンマコオロギ
- 4) ウマオイ
- 5) カネタタキ



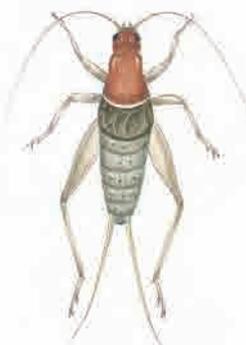
スズムシ



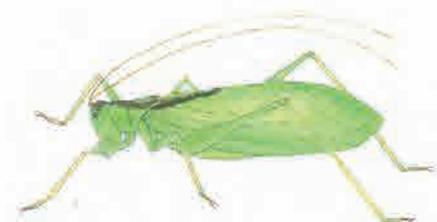
エンマコオロギ



クツワムシ



カネタタキ



ウマオイ

《^{て わた}手渡し》

プリント えんぴつ おもちゃ ハサミ

^{りょうて}両手で^{て わた}手渡し ^{りょうて}両手で^{う と}受け取る

^{せんせい}先生から プリント もらうとき

^{らんぼう}乱暴にとっては ダメダメ

^{とも}友だちに おもちゃを わたすとき

おもちゃをなげては ダメダメ

みんなは かなしくなるね

^{りょうて}両手で ^{て わた}手渡し はいどうぞ

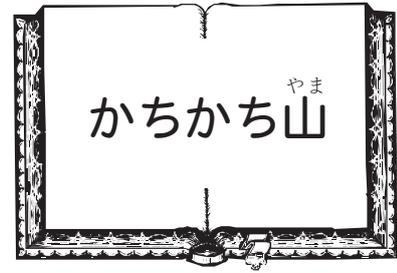
^{りょうて}両手で ^{う と}受け取り ありがとう

みんなはできる やってみよう

^{りょうて}両手で ^{て わた}手渡し ^{りょうて}両手で ^{う と}受け取る

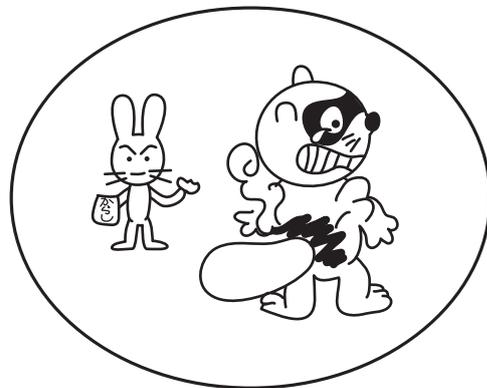
みんなは たのしくなるね





「かちかち山^{やま}」は、いたずらのひどいタヌキを、ウサギがこらしめるお話し^{はなし}です。
お話し^{はなし}を聞いた後^{あと}で、質問^{しつもん}にこたえてみましょう。

- 1 おじいさんは、いたずらのひどいタヌキをどうしましたか。
- 2 ウサギは、おじいさんに何^{なん}といいましたか。
- 3 ウサギは、薪^{たきぎ}を背負^{せお}ったタヌキに何^{なに}をしましたか。
- 4 ウサギは、やけどをしたタヌキに何^{なに}をぬりましたか。
- 5 ウサギはどんな船^{ふね}、タヌキはどんな船^{ふね}を作^{つく}りましたか。



竹里館
ちくりかん

独り坐す
 ひとざす
 幽篁の裏
 ゆうこううち
 琴を弾じ
 ことをだんじ
 復た長嘯す
 ままたちようししやうす
 深林
 しんりん
 知らず
 来たりて相照らす
 ききたりてあいてらす
 明月
 めいげつ
 来たりて相照らす
 ききたりてあいてらす

王
おう

維
い



人もをし
人も恨めし
世を思ふゆゑに
あぢきなく
物思ふ身は

(後鳥羽院)

わたの原
漕ぎ出でて見れば
雲居にまがふ
久方の
沖つ白波

(法性寺入道前関白太政大臣)

秋風に
たなびく雲の
もれ出づる月の
絶え間より
影のさやけさ

(左京大夫顕輔)

天の原
ふりさけ見れば
三笠の山に
春日なる
出でし月かも

(阿部仲麻呂)



後鳥羽院